

1 改善状況で評価できる点

【 養育園 】

- (1) 権利擁護及び虐待防止の取組
 - ・虐待防止研修の計画的な実施など、継続して権利擁護に取り組んでいる。
- (2) 利用者の立場に立った福祉サービスの提供
 - ・保護者への個別支援計画の説明をすすめ、保護者の来園が困難なケースは児童相談所担当者に協力を依頼するなど、児童（保護者）の意向を踏まえた個別支援計画の作成に努めている。
 - ・団らん室に児童の要望により備品を配置するなど、児童の趣味等に考慮して生活環境の向上に努めている。
- (3) 職員の資質向上と人材育成
 - ・事業団内でも交換研修を企画し、成人施設（アドバンスながうら）における実地研修などを実施している。
- (4) 支援現場の透明性の確保
 - ・パーソナルサポーターの受入れ、第三者委員の巡回など、外部の目を入れるよう引き続き努めている。
- (5) 地域生活移行
 - ・保護者が地域での暮らしの実状について知ることができるよう、更生園の保護者とともに養育園の保護者が民間グループホームを見学するなどの取組みをすすめている。

【 更生園 】

- (1) 権利擁護及び虐待防止の取組
 - ・チェックシートの活用により、日々の支援を振り返る場面が多くなったとの声が聞かれた。
- (2) 利用者の立場に立った福祉サービスの提供
 - ・個別支援計画の作成・モニタリングにおいて保護者への説明の場を設け、意見・要望を聴いている。
- (3) 職員の資質向上と人材育成
 - ・強度行動障害支援においては、スーパーバイズ研修を活用し、中堅職員と若手職員が組んで、随時、支援方法を検証・修正しながら取り組んでおり、職員のスキルの向上が図られている。
 - ・外部研修を積極的に受講させたり、他の民間施設の見学の機会を設けるなど、外部の情報を積極的に取り入れ、支援の質の向上につなげる取組みを進めている。
- (4) その他
 - ・新体制になってから、外部の目が多く入り、体験型の研修が増えたことなどにより、ものの考え方が柔軟になり、いろいろな意味でオープンになったとの声が聞かれた。

2 今後も継続的に改善を必要とする点

- (1) 権利擁護及び虐待防止の取組
 - ・職員の意識啓発の取組みを今後も継続して行うこと。
 - ・ヒヤリハットや事故報告について、再発防止のため、統計・分析を行うなど一層の活用を努めること。
- (2) 利用者の立場に立った福祉サービスの提供
 - ・本人のニーズと障害特性を考慮して、支援の質の向上に引き続き努めること。
 - ・親しみ易く開放的な住環境となるよう、環境改善の取組みの深化を図ること。